

■藤原房前 公卿。不比等の次男。後継者に選定されるも、父の死で兄と入れ替るが、疫病大流行で<藤原四卿没>。

ふじわらのふささき

・ ・ ・ ・ ・ 681＝ 蘇我臣武羅自古(連子)の女石川朝臣娍子を母に，「藤原不比等の第二子に生まれる。武智麻呂より1つ下。

天武天皇没 ・ 686＝ 5歳：

持統天皇 ・ ・ 690＝ 9歳：

宇合・麻呂の兄。

・ ・ ・ ・ ・ 699＝18歳：

持統天皇没 ・ 702＝21歳：

・ ・ ・ ・ ・ 703＝22歳：東海道巡察使になって以降，「兄武智麻呂に雁行して順調に出世し，早くからその才腕を囑望された。継母橘三千代は房前の才能を見込んで，先夫美努王との間にもうけたひとり女牟漏女王を与えているが，その子真楯が後の摂関家の祖となっているところからすれば，三千代の眼力に狂いはなかったといえよう。

和同開珎 ・ ・ 708＝27歳：

平城京遷都 ・ 710＝30歳：

行基活動禁圧 717＝36歳：*武智麻呂に先んじて朝政に参議。父不比等が彼を自己の政治上の後継者に選定したことを意味する。

藤原不比等没 720＝39歳：「父を失ったが，

長屋王右大臣 721＝40歳：*元明太上天皇の信頼篤く，その死に臨んで，右大臣長屋王とともに召されて遺詔を承り，内臣となって内外を計会し，勅に准じて施行し，帝業を輔翼して永く国家を寧んぜよと命ぜられたように，元正母娘の信は房前に対して最も厚かったようである。

聖武天皇即位 724＝43歳：「聖武天皇の即位により正三位に叙せられ，

行基山崎橋 ・ 726＝45歳：

渤海交流始 ・ 728＝47歳：授刀衛を改組して設置された中衛府の初代長官であったと考えられ，*この時点では，彼は藤原氏内部の最高権力者であったとみてよいと思われる。以後の事績は多くは伝わらず，それまで東宮博であった兄武智麻呂が聖武の即位とともに優遇され，中納言・大納言・右大臣と順調に昇進していったのと対照的である。

長屋王の変 ・ 729＝48歳：

遣唐使9 ・ ・ 732＝51歳：東海・東山二道節度使，その前後に民部卿に任ぜられたが，

真備玄昉帰国 735＝54歳：

藤原四卿没 ・ 737＝56歳：*天然痘の流行により，他の兄弟とほぼ時を同じく最初に没した。時に参議民部卿正三位。正一位・左大臣を贈られ，食封2千戸を20年を限りその家に賜わった。文才もあり，「万葉集」「懷風藻」にその詩歌が収載されている。